

犯罪学研究センター 国際シンポジウム

エビデンスは何をどこまで明らかにしたのか;
キャンベル共同計画・刑事司法グループの成果

Date

2019 2.2 (sat)

第1部：基調講演 10:30-12:30

第2部：セミナー 13:30-15:00

Place

龍谷大学 深草キャンパス
22号館104教室

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

犯罪防止における科学的エビデンスの構築と共有、
そして、エビデンスに基づいた政策立案を目指して。

基調講演・講師：ロレイン・マツェロール教授（豪・クイーンズランド大学）

エビデンスに基づいた犯罪対策の重要性と実践、
国際研究プロジェクト「キャンベル共同計画」
が作り上げてきた効果的な犯罪対策や再犯防止
のための犯罪者処遇に関する成果を紹介。

みなさま、奮ってご参加ください。

事前申込不要・参加費無料・逐次通訳あり

主催：龍谷大学 犯罪学研究センター

[TEL] 075-645-2184

[FAX] 075-645-2240

[E-mail] crimrc2016@ad.ryukoku.ac.jp

[URL] <https://crimrc.ryukoku.ac.jp>

[Twitter] @Ryukoku_CrimRC

Special Symposium On Criminology

テーマ

エビデンスは何をどこまで明らかにしたのか；
キャンベル共同計画・刑事司法グループの成果

- ・ 基調講演講師：ロレイン・マツェロール（オーストラリア・クイーンズランド大学教授）
- ・ モデレーター：浜井浩一（本学法学部教授・犯罪学研究センター国際部門長・政策評価ユニット長）
- ・ 主催：龍谷大学 犯罪学研究センター（Criminology Research Center）

企画趣旨

日本の刑事政策に最も不足しているのがエビデンスに基づいた政策立案である。龍谷大学犯罪学研究センターでは、こうした日本の刑事政策の置かれた状況を打破し、科学的な犯罪対策を推進するため、研究プロジェクトの中に「政策評価」ユニットを設けた。このユニットでは、犯罪学(犯罪防止)における科学的エビデンスの構築と共有を目的として、国際研究プロジェクト「キャンベル共同計画

(Campbell Collaboration:津富宏日本代表)」と協力し、同計画が作り出してきた、犯罪防止や再犯防止といった犯罪学分野における効果的な介入に関する科学的エビデンス(系統的レビュー)を日本語に翻訳し、HP等を通して広く配布することで、関係する学会、行政、立法府に対して情報提供(エビデンスの普及)を行っている。

今回は、基調講演としてアメリカを中心に活躍し、エビデンスに基づく犯罪対策、特に警察活動による犯罪予防の分野の第一人者であるロレイン・マツェロール教授をお招きし、エビデンスに基づいた犯罪対策の重要性やその実践と成果について発表いただく。また、これまでにキャンベル共同計画が作り上げてきた効果的な犯罪対策や再犯防止のための犯罪者処遇に関して、何が、どこまで明らかとなってきたのか、その成果の概要を紹介するとともに、エビデンスに基づいた政策実践の国際的な集まりであるEvidence and Implementation Summitの活動についても紹介する。

再犯防止や犯罪予防に関心のある実務家・研究者をはじめ多くの方にぜひ参加していただきたい。

講師紹介

ロレイン・マツェロール教授

エビデンスに基づいた警察活動や薬物対策などの犯罪予防研究が専門で、実験的な手法を用いた犯罪学研究の世界的な第一人者。実験犯罪学会(the Academy of Experimental Criminology)会長(現編集委員長)、アメリカ犯罪学会国際部会長などを歴任し、2018年にアメリカ犯罪学会サーストンセリン&グリユク賞、2013年にジョアン・マコード賞など数多くの学会賞を受賞している。



Professor Lorraine Mazerolle
(University of Queensland)

プログラム

10:30	開会の挨拶(石塚伸一 犯罪学研究センター長)
10:35	浜井浩一 犯罪学研究センター国際部門長・政策評価ユニット長・趣旨説明
10:45	基調講演「犯罪防止におけるエビデンスの重要性」 ロレイン・マツェロール・クイーンズランド大学教授 Professor Lorraine Mazerolle (University of Queensland)
12:30	昼休憩(～13:30)
13:30	浜井浩一「キャンベル共同計画の成果(キャンベル共同計画日本語ホームページから):効果的な犯罪予防・犯罪者処遇(再犯防止)において何が、どこまで明らかとなっているのか」
14:30	岡邊健(京都大学)・相澤育郎(立命館大学)「エビデンスに基づいた政策の国際的潮流: Evidence and Implementation Summitに参加して」
15:00	閉会の挨拶(社会学部長 津島昌寛)

Shall we do
Criminology?



Ryukoku
CrimRC

龍谷大学
犯罪学研究センター

